令和８年度

「運営に関する計画」

（中間評価）

大阪市立海老江東小学校

令和８年 10 月

（様式Ⅰ）

大阪市立海老江東小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

Ⅰ　学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、大阪市教育振興基本計画の３つの最重要目標である【安全・安心な教育の推進】【未来を切り拓く学力・体力の向上】【学びを支える教育環境の充実】における目標において、本校が未達成である項目を洗い出し、教職員で共通理解したうえで「運営に関する計画」の年度目標に設定し、取組内容及び指標を設定して取り組んできた。その結果、以下のような成果と課題が見られる。

【安全・安心な教育の推進】

○　令和７年度も、「心を育てる」を学校経営の重点に据え、道徳の時間を中心とした指導の工夫はもとより、異学年による集団活動の取組（スマイル班活動）や、地域の人材を活用した体験的な活動など、自分や他者を大切に思い行動することや感謝する心の育成に取り組んできた。

○　また、いじめ・不登校の早期対応に努めるとともに、毎月のいじめ対策委員会(生活指導連絡会)や校内支援会議を行い、事案の共通理解や見立て、役割分担などを明確にしながら、「チーム学校」として、スクールカウンセラーや区の子育て支援室等と連携しながら、学校全体で対応に当たってきた。これらにより、不登校の未然防止やいじめにつながる事案、いじめ問題の解消に成果が表れてきている。

●　課題としては、登校はしているものの教室に入りにくい児童が複数名いることから、引き続き、学級・学年だけでなく、学校全体で、人権意識の向上や多様性を認めあえる学校風土の醸成に努めていく必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○　５年間の国語科の校内研究の成果をもとに、今年度より、総合的読解力育成カリキュラムを活用した「言語活動を通して総合的読解力を育成する」を研究テーマに、「大阪市総合教育センター実践校」として、より豊かな自分の考えの発信・表現ができる児童の育成をめざして研究実践に取り組んできた。その結果、校内アンケートで「自分の意見や考えをみんなに発表したり、相手に話したりすることができていますか。」について、肯定的回答が 89.4%と、目標値の 80%を大きく上回った。

○　また、日々の「わかる」「楽しい」授業の実践や、自主学習習慣の定着に向けた取組などにより、大阪市小学校学力経年調査の結果では、３年から６年の全学年において、国語・算数・社会・理科のすべての教科で大阪市平均を上回った。

○　学力に課題のある児童が増加していることが課題であったことから、２学期から毎週金曜日に 40 分授業を導入し、捻出した 20 分間を「かいとうタイム」として児童一人一人の学習の状況に応じた学びの時間としたことで、４年から６年において、国語・算数ともに、学力に課題のある児童の割合が減少しつつある。

●　しかしながら、依然として学力に課題のある児童が少なくないことから、引き続き児童一人一人の学習の状況に応じた学びの充実に努めていく必要がある。

○　今年度から通常通り運動場が活用できるようになった。体育の授業では、児童が目標を意識し、「できた」「わかった」を味わえるような授業改善を行ってきたことで、「運動が好き」と回答する児童は、71.1%と目標を達成するとともに、全国体力・運動能力等調査では

男子は８種目中４種目で、女子は８種目中６種目で大阪市平均・全国平均上回った。今後も体力合計点が全国平均以上となるよう、引き続き「運動が好き」と回答する児童を育てるとともに、児童が目標を意識し、「できた」「わかった」を味わえるような体育の授業改善に取り組んでいく。

【学びを支える教育環境の充実】

○　学習者用端末を効果的にかつ日常的に授業等で活用できるよう、研修や啓発に努めたことで、授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の77.4%を超えるなど、大きな成果を上げることができた。

●　一方で、日常的な活用が進むからこそ、情報モラル学習やセキュリティなど情報社会で生き抜くための資質・能力を育むとともに、ICT を活用した授業の「探究型・創造型」への転換が今後の課題である。

○　図書館支援員による休み時間の図書室開放や低学年への読み聞かせなどにより、多くの本に触れる機会を創出できた。今後も引き続き、本を読みたいと思えるような取組を進めていく。

中期目標

【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】

基本的な方向１　安全・安全な教育環境の実現

- 令和 11 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。

基本的な方向２　豊かな心の育成

- 令和 11 年度の全国学力・学習状況調査の「自分には、良いところがありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88.0%以上にする。

【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上

- 令和 11 年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を、国語・算数ともに、1.00 ポイント以上にする。
- 令和 11 年度の大阪市小学校学力経年調査におけるボリュームゾーンにあたる層の変化率を、国語・算数ともに 1.0%以上にする。
- 令和11年度の全国学力・学習状況調査における学力に課題の見られる児童の割合の全国との差を、国語・算数ともに0%以下にする

基本的な方向５　健やかな体の育成

- 令和 11 年度の全国体力・運動能力等調査の体力合計点の対全国比を 1.00 ポイント以上にする。

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向６　教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 令和 11 年度の大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.0%以上にする。

基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 令和 11 年度末の、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を 20 時間以下にする。［本市調査］

2　中期目標の達成に向けた年度目標

【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】

基本的な方向１　安全・安全な教育環境の実現　１－２　不登校への対応

- 令和８年度末の校内調査で、不登校児童生徒の在籍比率を、前年度より減少させる。

基本的な方向２　豊かな心の育成　２－３　人権を尊重する教育の推進

- 令和８年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85.0%以上にする。

【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上

- 令和８年度の小学校学力経年調査における、学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、国語・算数ともに、いずれの学年も前年度より 0.1%以上減少させる。　（国語：４年 23.8%　５年 20.4%　６年 21.7%）
  （算数：４年 15.9%　５年 18.9%　６年 10.2%）
- 令和８年度の小学校学力経年調査における､「総合的読解力育成カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90.0%以上にする。

基本的な方向５　健やかな体の育成

- 令和８年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」 に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合 70%以上を維持する。（前年度：73.9%）

【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向６　教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- 令和８年度の大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70.0%以上にする。

基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- 教員の時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。

3　本年度の自己評価結果の総括

大阪市立海老江東小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】 **基本的な方向１　安全・安全な教育環境の実現　１－２　不登校への対応** ➢　令和８年度末の校内調査で、不登校児童生徒の在籍比率を、前年度より減少させる。 **基本的な方向２　豊かな心の育成　２－３　人権を尊重する教育の推進** ➢　令和８年度の小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85.0%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容	指標	目標値	
【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ・　ほっとルームや SC ルームを活用し、SC などの関係各所との連絡を密に行う。	・　学校アンケート（７・12 月）「毎日学校に楽しく来ていますか。」に対する肯定的な回答の割合	85.0%以上	A
【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ・　生きる力を育む「性に関する指導」（性・生教育）や道徳・人権教育などの１年間の指導計画を活用し、重点的に実践する。	・　生命（いのち）のアンケート「一人一人が大事な存在であると思いますか。」に対する肯定的な回答の割合	85.0%以上	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】

○　学校アンケート「毎日学校に楽しく来ていますか。」に対する肯定的な回答の割合は、学校全体で 90.5%と目標値を達成できた。R7 年度、本校の不登校児童数は６人であったが、R8 年度 10 月現在の不登校児童は３人である。

10 月までのほっとルームの活用は５人、カウンセリングルームの活用は 16 家庭である。スクールカウンセラーと担任・保護者との連携はその都度できているが、ほっとルームの担当者との連携は、記録ノートだけでは十分とは言えない。

児童の良さを認め合えるような取り組みを全クラスで行っている。さらに、学校がワクワクする場となるように、学年やクラスで楽しい企画をするといった仲間づくりや、体験活動を通して課題を見つけ、調べ解決するといった主体的に学びに向かう授業づくりに取り組んでいる。

【基本的な方向２　豊かな心の育成】

○　いのちのアンケート「一人一人が大事な存在であると思いますか。」の肯定的な回答は学校全体で 99.3%と高数値であった。いじめを考える日や人権教育、道徳科、保健指導、海東防災 DAY などで、一人一人が大切であるという態度が育ってきている。

いじめ対策委員会や生活指導連絡会を月に１回行い、全教職員で連携を図っている。

次年度への改善点
【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 ○　引き続き、児童が安心して学校生活を送れるように、意思表示をしやすくなるような具体物を整えるなど、児童の思いを大切にできる環境づくりを行う。今後も児童理解に努め、SCやほっとルームとの連携を図っていく。 【基本的な方向２　豊かな心の育成】 ○　今後も「心の天気」や日々の関わりの中で児童に寄り添い、学年や学校間で共有できるようにする。

大阪市立海老江東小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】 **基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上** ➢　令和８年度の小学校学力経年調査における、学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、国語・算数ともに、いずれの学年も前年度より 0.1%以上減少させる。 （国語：４年 23.8%　５年 20.4%　６年 21.7%） （算数：４年 15.9%　５年 18.9%　６年 10.2%） ４－１　言語活動・理数教育の充実（思考力・判断力・表現力の育成） ➢　令和８年度の小学校学力経年調査における、「総合的読解力育成カリキュラムに取り組むことで、資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んだり、自分の考えを発表するときに、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表したりしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、90.0%以上にする。 **基本的な方向５　健やかな体の育成** ５－１　体力・運動能力向上のための取組の推進 ➢　令和８年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」 に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。（前年度：89.９%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容	指標	目標値	
【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・　授業や短時間学習（モジュール）において、個別最適な学習を追求するとともに、各学年・学級の課題に応じたアプローチができるような取組を行う。	・　令和８年度の小学校学力経年調査における、学力に課題の見られる児童の割合（国語・算数）	いずれの学年も前年度より 0.1%以上減少	B
【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 ・　「総合的読解力育成カリキュラム」に基づく読解力の育成に毎週１時限以上授業として取り組み、読み取った資料から	・　令和８年度の校内アンケート「資料や文章などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる」に対する、肯定的な回答の割合	85%	A

自分の考えを整理し、さまざまに表現する機会を増やす。			
【基本的な方向５　健やかな体の育成】 ・　体育科の授業で運動の楽しさ（特性）に十分触れるようにする。 ・　運動場の環境を整備し、休み時間の外遊びを楽しむことができる工夫を行う。	・　令和８年度の学校アンケート「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対する肯定的な回答の割合	90%	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】

○　学力経年調査未実施のため、進捗状況などは評価できない。日頃は各学年・学級の実態に応じて、授業では「発表や交流の際に参考となる表現を集めた掲示物の作成」や「意図的な交流の場の設定」等を行い、短時間学習では自身の習熟度に応じてプリントを選択したりデジタルドリルを活用したりしながら、学年・学級全体における学習の基礎・基本の定着を図るとともに、学力に課題のある児童へもアプローチしている。

○　指標に対する肯定的な回答の割合は、校内全体では 93.5%。全体として達成しているが、各学年で見ると 85%に満たない学年もあり、継続した取り組みが必要。題名や見出し・繰り返されている言葉などに着目する読み方について、総合的読解力育成カリキュラムだけでなく、各教科の学習でも繰り返し指導していく。

【基本的な方向５　健やかな体の育成】

○　運動やスポーツが好きな児童は 89.2%と全体として高く、体育の授業にも意欲的に取り組んでいる。一方、休み時間は外で遊ぶ児童が固定化している傾向が見られる。学年別に見ると、肯定的な回答が多い学年では、休み時間に外遊びをする児童も多く、運動への好意と外遊びには関連性があると考えられる。運動への興味・関心や経験には個人差があるため、短い時間でも体を動かせる機会を増やし、日常的に運動に親しめる環境をつくることが課題である。

次年度への改善点

【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】

○　学力経年調査に向けて引き続き児童の実態把握と個別支援に努めるとともに、１０月の第３回学力向上推進委員会では各学年の実態・課題について改めて確認する。同時に、日々の学習指導においても学年部で指導の要点を確認しながら、基礎・基本を確実に押さえていけるよう留意したい。

○　学習した文章の読み方や意見の整理の仕方を、他教科や話し合い活動などの場面でも活用できるように意識的に指導をしていく。

【基本的な方向５　健やかな体の育成】

○　体育科授業の準備体操に、リズムジャンプ運動など短時間でも楽しみながら取り組める活動を取り入れ、運動へのきっかけを増やす。３学期には「元気 100%週間」を実施し、リズムジャンプ運動を全学年で行うなど、学校全体で運動を楽しむ機会を設ける。また、体育の授業では運動の得意・不得意に関わらず、できたことや上達したことを実感できる活動を工夫し、達成感や自信につなげる。友達と関わりながら楽しめる活動も取り入れ、運動への興味・関心を高め、運動好きな児童を増やしていく。

大阪市立海老江東小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】 **基本的な方向６　教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進** ➢ 令和８年度の大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70.0%以上にする。 **基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり** ➢ 教員の時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。 **基本的な方向８**　生涯学習の支援 ➢ 令和８年度の大阪市小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80.0%以上する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標			進捗状況
取組内容	指標	目標値	
		実績値	
【基本的な方向６　教育 DX の推進】 ・　スライドや PowerPoint、CANVA などのツールを活用して、学期に１回程度学習者用端末を用いた、「まとめ・表現する」取組を行う。	・　校内アンケート（３年生以上）「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対する、肯定的な回答の割合	70%以上	A
【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・週１回のゆとりの日や月２回の定時退勤デーの設定を行う。	・　時間外勤務時間について、月７０時間以上実施する教員の割合	０％	A
【基本的な方向８　生涯学習の支援】 ・　本が読みたくなるような環境作りや学級文庫の整備、年１回以上の学級貸し出しや福島図書館の利用を行い、多くの本に触れる機会を増やす。	・　学校アンケート「読書は好きですか。」に対する、肯定的な回答の割合	80%以上	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【基本的な方向６　教育 DX の推進】
○　アンケートに対する肯定的な回答は 93.5%だった。
○　調べたい、知りたいことに対する情報の収集はどの学年（３～６年）もできている。
○　調べた情報をまとめ・整理することができている。
（国語科・社会科・総合的な学習において、発表ノート・CANVA などの活用）

【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
○　指標に対する数値は０％で目標値を達成している。（４～８月）
○　週１回の「ゆとりの日」や月２回の「定時退勤デー」を設定・徹底したことで、退勤時間を意識することができた。
○　退勤時刻は早まったものの業務そのものの削減には至っておらず、勤務時間内に終えることが難しい業務については持ち帰って対応している教員が多く、勤務時間の削減が必ずしも業務負担の軽減につながっていない。また、行事前の研修が多く、会議時間も長くなっているため、放課後に教材研究や授業準備に充てる時間が十分に確保できていない。
【基本的な方向８　生涯学習の支援】
○　アンケートに対する肯定的な回答は 86.4％であった。
○　朝の読書タイムの継続的な実施や、読書ノートの活用によって、本に親しむ機会を確保し、読書習慣の定着を図っている。
○　低・中学年はいずれも目標を上回っており、図書館の積極的な利用や、読書への前向きな姿勢がみられる。
○　高学年では読書への関心がやや低下する傾向にあり、6 年生は肯定的回答率 79％(B 評価)となっている。読書量や読書への意欲に個人差があるのが現状である。

次年度への改善点

【基本的な方向６　教育 DX の推進】
○　「調べる」ということはできているが、調べた内容そのままでまとめている様子が見られる。収集した情報をもとに、相手意識をもってまとめ・表現する力をつける必要がある。
【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
○　会議や研修の開催時期や回数・時間の見直しを行い、個人の教材研究や事務作業の時間を確保する必要がある。
【基本的な方向８　生涯学習の支援】
○　児童がより読書に向かいやすくするため、学級文庫の見直しや、教科内容・身近な話題に関連する本の配置など、環境の充実を図る必要がある。
○　読書への抵抗感を減らし親しみやすくするために、おすすめの本を紹介し合う交流などを通して、絵本を含めた多様な本に触れる機会を確保するとともに、読書に親しめるための工夫が必要である。